

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 42人 |
| ② 算数 | 41人 |
| ③ 理科 | 42人 |

5 留意事項

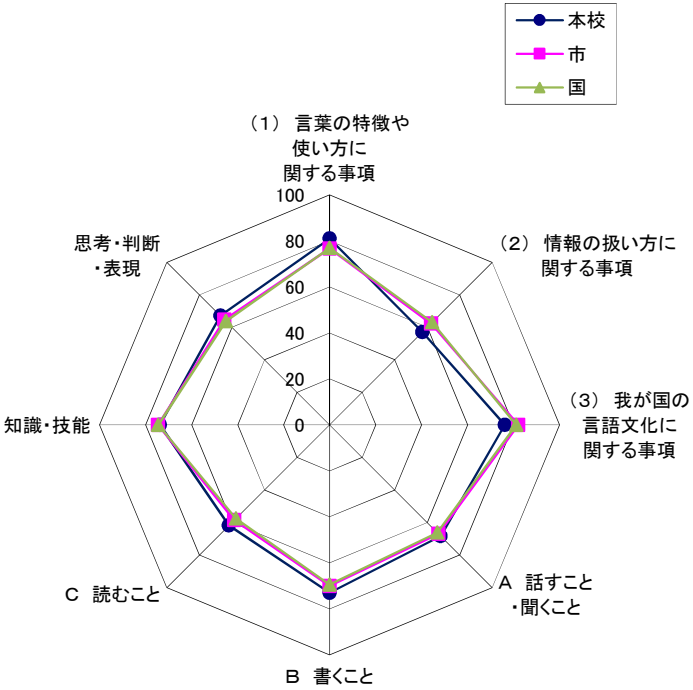
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	81.0	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	57.1	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	76.2	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	68.3	67.0	66.3
	B 書くこと	73.0	70.0	69.5
	C 読むこと	61.9	58.6	57.5
観点	知識・技能	73.8	74.5	74.5
	思考・判断・表現	67.1	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

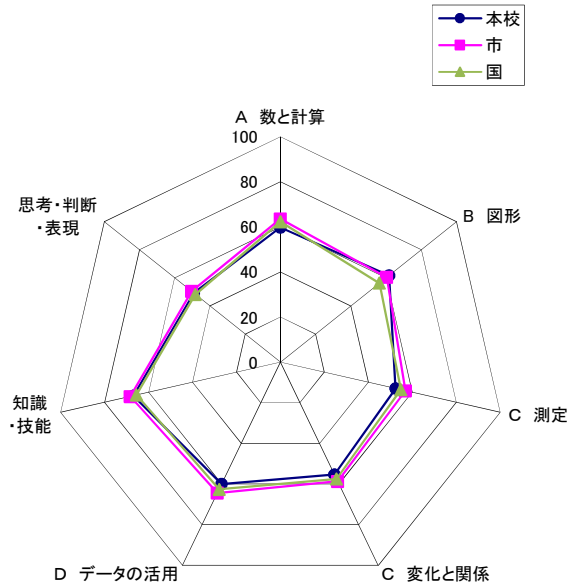
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均を4.1ポイント上回っている。 ○漢字や言語事項に関する内容については、既習事項がおおよそ身に付いていると考えられる。	・読み方や字形、同音異字や同訓異字に注意して繰り返し学習を継続する。 ・漢字の小テストを繰り返し行いながら、児童自身が自分の間違えやすい漢字を把握し、家庭学習に生かせるようにする。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均を6ポイント下回っている。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができるかどうかを問う問題では、理解が不十分である。	・情報と情報を関連付けて理解する力を養うために、情報の関係性を図式化したり、表現の型を用いたりする機会を設ける。また、自分の考えや書いた文章を、他者と比べたり話し合ったりする活動を取り入れる。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国平均を5ポイント下回っている。 ●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかを問う問題では、理解が不十分である。	・日常的に読書に親しみ、自分の考えを広げられるような言語活動を設定する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均を2ポイント上回っている。 ○インタビュー中の質問の意図について理解している児童が多い。 ●話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができない児童が多い。	・伝える相手を意識したり上手にメモを活用したりして、自分の思いや考えを効果的に伝える機会を設定する。 ・各教科や学級活動、委員会活動などの話し合い活動を充実させるとともに、児童一人一人が自分の考えを分かりやすく伝えたり友達の考えを聞いたりする機会を多く設定する。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均を3.5ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き方を工夫することができる児童が多い。	・感想文や振り返りを書く活動では、書くことの目的や意図を明確にすることで、相手に伝えたいことをはっきりさせるよう指導する。 ・自ら進んで書きたいと思うような段落や内容の条件作文等に取り組むことで、条件がある意見文が書けるよう指導していく。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均を4.4ポイント上回っている。 ○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えることができる児童が多い。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができない児童が多い。	・説明文を読んで、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する力の向上を図る。

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	59.8	63.6	62.3
	B 図形	61.6	60.4	56.2
	C 測定	52.4	56.9	54.8
	C 変化と関係	55.3	58.6	57.5
	D データの活用	60.0	64.4	62.6
観点	知識・技能	66.9	68.3	65.5
	思考・判断・表現	49.1	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

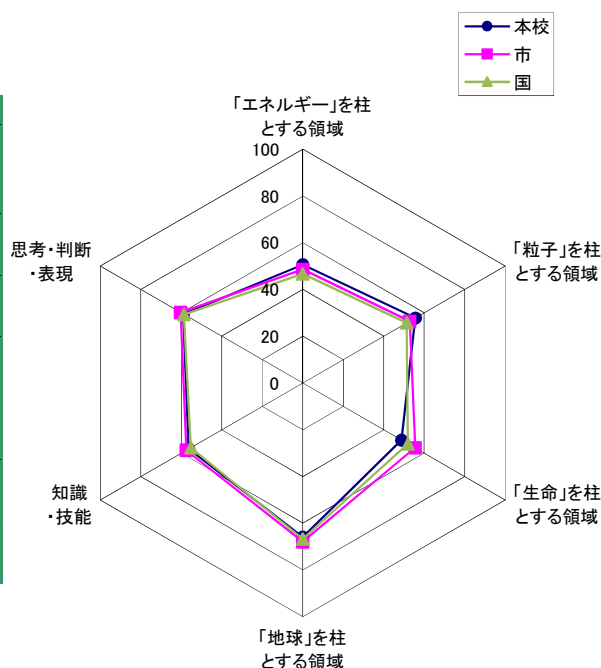
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国平均を2.5ポイント下回っている。 ○示された資料から必要な情報を選び、数量関係を式に表して正しく計算することや、数の相対的な大きさを用いて共通する単位を捉えることに関する問題では、全国平均を上回っている。 ●異分母の分数の加法の計算では、全国平均を10.5ポイント下回っているなど、分数への理解に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業をはじめ、朝の学習や家庭学習等で計算スキル・プリント等を活用し、基本的な計算スキルの定着を図る。 ・数の大きさを視覚的に捉えながら理解を深めることができるよう、数直線や線分図を用いて数量を表したり比較したりする学習を丁寧に行うようにする。
B 図形	平均正答率は、全国平均を5.4ポイント上回っている。 ○複数の図形の中から台形を選ぶ問題は13.2ポイント、平行四辺形の作図に関する問題は5.1ポイント上回っている。図形の定義や図形の描き方への理解度が高いと考えられる。 ●基本図形に分割することができる五角形の面積の求め方を記述する問題の正答率は、全国平均を上回っているものの、41.5%と低かった。式や言葉で説明することへの課題が見られる。	・友達に説明したり、順序立ててノートに書き表したりする学習活動を設定することで、筋道を立てて説明する力を育てていきたい。 ・多様な求め方や、分かりやすく説明する方法などを知ることができるよう、話し合い活動を多く設定する。
C 測定	平均正答率は、全国平均を2.4ポイント下回っている。 ○はかりの目盛りを読む問題においては、正答率が65.9%と全国平均を5ポイント上回っている。1めもりの大きさを正しく読み取ることができている。 ●問題を解決するために必要な事柄を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する問題は、全国平均を9.7ポイント下回っている。必要な事柄を判断したり説明したりすることへの課題が見られる。	・理科や家庭科など他教科との関連や日常生活での活用の意識付けを図ることで、さらなる定着を目指す。 ・問題文を丁寧に読み取り、問われている状況を整理しながら理解することができるよう、習熟度別学習や少人数学習など指導方法を工夫する。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均を2.2ポイント下回っている。 ○「増量後の量」が「増量前の量」の何倍かになっているかを求める問題では、全国平均を7.9ポイント上回っている。 ●伴って変わる二つの数量の関係に着目して必要な数量と見いだす問題については、全国平均を4.8ポイント下回っている。	・割合の学習において、基準量と比較量、それらの関係性について丁寧に指導するとともに、練習問題や復習問題を充実させることで定着を図る。 ・様々な情報と関連付けて考えながら、算数的思考を広げたり深めたりできるように、情報を集めたり調べたりしながら結果を導き出す課題解決学習を積極的に取り入れる。
D データの活用	平均正答率は、全国平均を2.6ポイント下回っている。 ○目的に応じて適切なグラフを選択し、出荷量の増減を判断してその理由を言葉や数を用いて記述する問題は、全国平均を5.6ポイント上回っている。 ●二次元の表から条件に合った項目を選ぶ問題は、全国平均より0.9ポイント下回っている。	・文章や図で表されたデータを正確に読み取ることができるよう、児童個々の理解度に合わせて丁寧に指導したりデジタル教科書を活用したりする。 ・身に付けた知識技能を活用できるようにするために、基本的な練習問題に加え、複合的な演習問題に取り組む機会を増やす。

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	50.6	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	55.6	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	48.8	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	65.9	67.9	66.7
観点	知識・技能	56.3	57.5	55.3
	思考・判断・表現	59.0	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均より3.9ポイント上回っている。 ○乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身につけているかどうかをみる設問では、正答率が全国平均より4.4ポイント上回っている。 ●身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引きつけられるものがあることについての知識が身に付いているかどうかをみる設問では、全国平均を大きく上回っているものの、正答率が19.0%と理解が不十分である。	・児童の実態に応じた指導を充実させ、基本的な知識の定着を図りたい。 ・電気と磁石の性質の基礎的な概念を明確にし、それらの間に存在する密接な関連性を実験や視覚的なモデルを通して示し理解を深められるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は全国平均より4.2ポイント上回っている。 ○「水は温まると体積が増える」を根拠に海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる設問では、全国平均を8.2ポイント上回っている。 ●水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる設問では、正答率は全国平均を上回っているが、54.8%と約半数の理解が不十分である。	・実験の結果から分かる考察を記述する機会を多く設けることで、実験や学習したことを俯瞰的に捉えて整理したり、まとめたりする力を養い、実験結果の根拠を正確に捉えられるようにしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均より3.2ポイント下回っている。 ○レタスの趣旨の発芽の条件について、差異点や共通点をもとに、新たな問題を見出し、表現することができるかどうかをみる設問では、全国平均を3.4ポイント上回っている。 ●発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる設問では、正答率は全国平均より9.6ポイント下回っており、理解が不十分である。	・実験や観察を通して、学習したことと身の周りにある事象とを結び付けて、結果から考察する力や発展的な思考力を養えるようにしていきたい。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均を0.8ポイント下回っている。 ○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】をもとに、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる設問では、全国平均より0.8ポイント上回っている。 ●赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる設問では、正答率が全国平均より8.1ポイント下回っている。	・実験のねらいや目的を明確にし、実験方法や条件を話し合わせたり調べさせたりして、実験に必要な情報を整理しまとめられるようにしていきたい。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○全体的にどの設問に対しても肯定的な回答が多く、素直で物事を前向きに捉えている児童が多い。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問には、肯定的回答が93.2%であった。今後も、児童のよさをさらに伸ばせるような学校にしていけるように工夫していきたい。

○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」という設問には、肯定的回答が93.2%で全国平均を5.8ポイント上回っていた。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」とう設問には、肯定回答が79.1%で全国平均を9ポイント上回っていた。授業を通して児童との信頼関係をより築いていけるようにしていきたい。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」や「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の設問に対して「当てはまる」と答えた児童の割合が、全国平均よりもとても高く、友達と協力したり、話し合ったりして問題解決につなげていく力を伸ばしている様子が伺える。

●「新聞を読んでいますか」という設問の肯定回答が4.5%、「読書は好きですか」という設問の肯定回答は70.5%とどちらも全国平均を大きく下回った。家庭と連携しながら、新聞や読書に親しめる工夫をしていきたい。

●「算数の勉強は好きですか」という設問の肯定回答が52.3%で全国平均を5.6ポイント下回っている。算数に苦手意識を持っている児童が多いため、習熟度学習や少人数指導の充実を図っていきたい。

宇都宮市立宮の原小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
対話的な活動から学びを実感できる学習活動の工夫	互いに認め高め合い、進んで学ぶ児童の育成を目指し、対話的な活動を積極的に授業に取り入れ、主体的に学び合おうとする授業を目指している。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合が86.3%で、全国・県の平均を上回っている。しかし、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」の質問に肯定的に回答した児童の割合が86.3%であったが、全国・県の平均を下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」の質問に肯定的に回答した児童の割合が75%で、全国・県の平均を下回っている。分からないことがあったときに、自らの力で解決していこうすることへの課題が見られる。	児童が主体的に学びたくなるような学習方法の工夫	児童自身が課題を見つけ、その解決のために、自ら学び方を工夫しながら主体的に取り組むことができるよう、学習活動や指導方法を工夫する。児童が「やってみたい。」「もっと知りたい。」と思えるような単元を通したゴールを設定したり、友達と協力しながら課題解決ができるよう学習形態を工夫したりする。